MRI 三菱総合研究所

日本

GDP2次速報予測（2025年10-12月期）
設備投資が上振れ、前期比年率+1.5%へ上方修正を予想

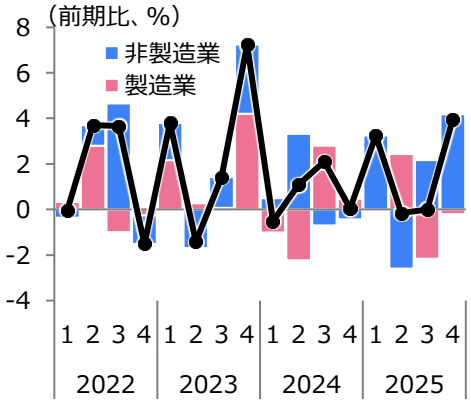
政策・経済センター
田中康就・田中嵩大・山本道也
03-6858-2717

1 GDP2次速報予測結果

単位：断りがない限り前期比（%）		2025年 10-12月期 1次速報実績	2025年 10-12月期 2次速報予測
実質GDP	前期比年率	0.1 (0.2)	0.4 (1.5)
民間最終消費支出		0.1	0.1
民間住宅		4.8	4.8
民間企業設備		0.2	1.6
民間在庫変動	寄与度	▲ 0.2	▲ 0.2
政府最終消費支出		0.1	0.1
公的固定資本形成		▲ 1.3	▲ 0.2
財貨・サービスの輸出		▲ 0.3	▲ 0.3
財貨・サービスの輸入		▲ 0.3	▲ 0.3
名目GDP	前期比年率	0.6 (2.3)	0.9 (3.6)
GDP デフレータ	前年同期比	3.4	3.4

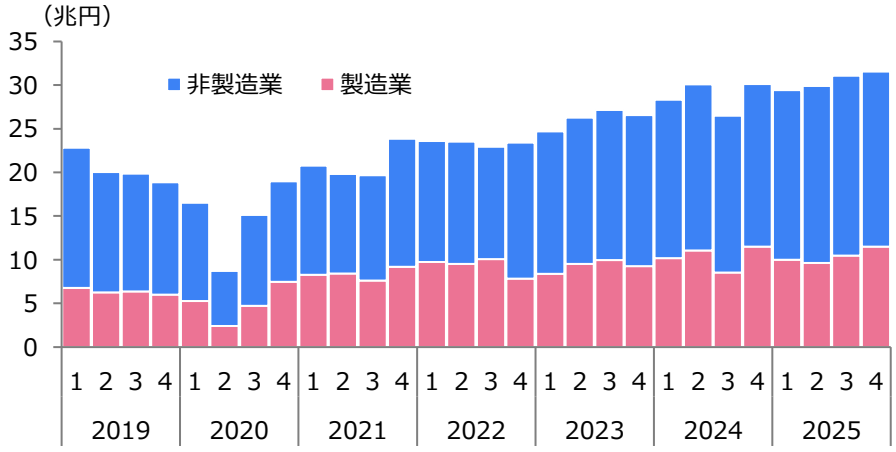
出所：内閣府「国民経済計算」を基に三菱総合研究所作成

2 設備投資（ソフトウェア投資を除く）



注：季節調整値。
出所：財務省「法人企業統計調査」を基に三菱総合研究所作成

3 企業の経常利益



注：季節調整値。
出所：財務省「法人企業統計調査」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

予測結果

- 2025年10-12月期の実質GDP成長率（2次速報値）は、前期比+0.4%（年率+1.5%）と、1次速報値（前期比+0.1%、年率+0.2%）から上方修正を予想する（図表1）。
- 民間企業設備投資は、前期比+1.6%と、1次速報値（同+0.2%）から上方修正を予測する。3月3日公表の法人企業統計調査では、企業の設備投資（ソフトウェア投資を除く、季調値）は前期比+4.0%と高めの伸びとなった（図表2）。GDP設備投資の需要側推計値は1次速報時点の仮置き値から上振れると試算される。
- 公的固定資本形成は前期比▲0.2%と、1次速報値（同▲1.3%）から上方修正を予測する。25年12月の公共工事出来高の増加を反映した。
- 民間在庫変動は前期比寄与度▲0.2%ポイントと、1次速報値（同▲0.2%ポイント）から概ね変更なしと予測する。

先行きの見通し

- 先行きの日本経済は、内需主導で1%近傍の成長が続くとみる。26年1-3月期に実質賃金が前年比プラスに転換し、個人消費の持ち直しが続くだろう。
- もっとも、中東情勢の深刻化による景気下振れリスクは懸念される。原油価格が高騰・高止まりすれば、物価上昇率の上昇を通じて、実質賃金の前年比プラス定着が阻まれるおそれがある。また、企業のコスト高・企業収益の下押しを通じた悪影響も懸念されるほか、エネルギー安定供給に支障が生じれば、経済活動の大きな制約となる。

＜参考＞法人企業統計調査（25年10-12月期）の概要

- 25年10-12月期の企業の経常利益（全規模ベース、季調値）は、前期比+1.6%と、3四半期連続で増加した（図表3）。製造業は同+9.8%と2四半期連続で増加した一方、非製造業は同▲2.6%と5四半期ぶりに減少した。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.